



咽頭結膜熱について

どんな病気？ アデノウイルスの感染により、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎といった症状をとまう、小児に多い病気です。通常、6月ころから徐々に流行しはじめ、7～8月にピークとなります。飛まつ感染あるいは接触感染が主な感染経路です。

主な症状 1日の間に39～40度の高熱と37～38度前後の微熱の間を上がったたり下がったりすることが4～5日ほど続き、扁桃腺が腫れ、のどの痛みをとまいます。

その間、頭痛、腹痛、下痢のほか、首のリンパ節が腫れることがあります。加えて、両目または片目が真っ赤に充血し、目やにが出るなどの結膜炎症状がみられる場合、咽頭結膜熱と診断されます。



治療方法について 咽頭結膜熱に特効薬はなく、特別な治療方法はありません。ほとんど自然に治りますが、吐き気や頭痛が強かったり、せきが激しかったりする時は、早めに医療機関に相談してください。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要になることがあります。

流水とせっけんによる手洗い、
うがいをしましょう。



感染者との密接な接触、
タオルの共有は避けましょう。



定点 種別	疾患名	状況	23週(6/2～6/8)		24週(6/9～6/15)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	—	23	0.92	15	0.60
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		19	0.76	27	1.08
	急性呼吸器感染症(ARI)		1618	64.72	1381	55.24
小児科	RSウイルス感染症		4	0.25	1	0.06
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	12	0.75	7	0.44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	27	1.69	22	1.38
	感染性胃腸炎	—	63	3.94	83	5.19
	水痘(みずぼうそう)	—	3	0.19	3	0.19
	手足口病	—	4	0.25	5	0.31
	伝染性紅斑(りんご病)	—	18	1.13	19	1.19
	突発性発しん		13	0.81	20	1.25
	ヘルパンギーナ	—	1	0.06	2	0.13
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	2	0.13	1	0.06
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	12	2.40	9	1.80
基幹	細菌性髄膜炎		1	0.20	1	0.20
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		6	1.20	12	2.40
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	1	0.20

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし